

丘のまちは緑でつながる

空洞化し人通りが少なくなった飯田の中心市街地を、緑を増やすことで世界に誇れる美しいおののちのあるまちにする。綿密な現地リサーチから、飯田の「丘の上」を多くの人々が訪れる快適で個性豊かな都市にするための提案をする。それは同時に、既存の都市構造やストックを最大限にいかしながら多くの人々をまちづくりに巻き込むことにもなる。リニア新幹線が開通する頃、豊かな緑であふれた丘のまちは、駅とりんご並木がつながって回遊性のあるにぎやかなまちになるだけでなく、海外から訪れる人から市内に住む人、まちなか居住者まで多様な人々をつなぐ環境文化都市になる。そして、まちは生き生きとよみがえる。



■まちづくりのコンセプト / まちを緑化することで訪れる人を迎え入れる環境をつくる

回遊性の創出

- 空地をいかしてつなぐ
- 緑化して、
- 1. 快適で豊かな環境にする
- 2. 人が集まるきっかけになる
- 3. イメージを変え、個性的なまちにする
- 4. 後世に受け継ぐ美しい資産を残す

既存の都市構造を活かす

↑ 迎え入れる

様々な人が集まってまちをつくる

所有形式を変えて都市を更新する

- 土地の交換の仕方、広場の作り方、換地
- 現在所有形態
- 新しい所有形態

裏界線を利用する

里界線が生活動線として有効利用されるように、一街区内に交流が起きそうな共通のプログラムを配置する。

従来は町家は核家族が営み、通り沿いに商いの場を持ち、中庭を挟んで同居する形式であった。高齢化や後継ぎ不足により現在はこの仕組みがうまく機能していない。商店街の衰退で生まれた空き地をいかにしながら、あらゆる主体がシェアして暮らす新しい町家を考える。

■まちづくりの前提

- 周辺の人・情報・文化が集まるコンパクトシティ**
→小さな世界都市の実現
- 多様な文化やモノが集積し新たな価値を生み出す**
→高付加価値多機能都市の実現
- 豊かな自然環境の中で文化を育む**
→環境文化都市の実現、環境首都を目指す
- 新たなまちの担い手を呼び込む**
→多世代が集まるサスティナブルな都市の実現

■飯田市丘の上の歴史背景



■リサーチから見えてくること

フィールドワークから

- ・駐車場
- ・商店

中心市街地は空洞化が進み駐車場が増加している。空き家を解体して月極駐車場として利用する例が多いが、利用率は37%にとどまっている。丘の上には公共施設や学校を始め多くの主要施設が集まっているものの、商店に訪れる人々は少ない。かつて居住者がいた駅南側は特に人通りが少なくなっている。

城北断面

北側＝明 南側＝暗

・駐車場の増加に伴う緑被率の減少

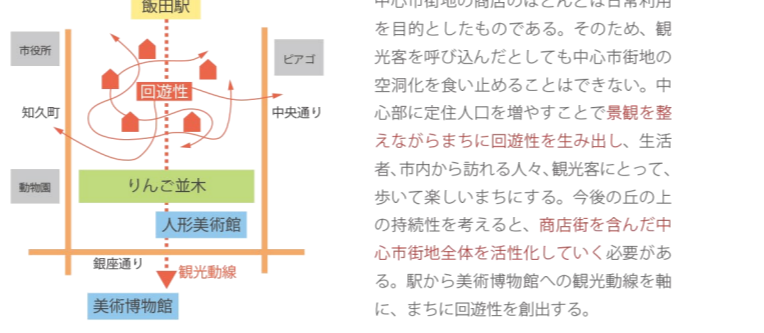
りんご並木や緑地帯以外で緑があるのは町家や寺社の中庭や玄関先である。このまま駐車場が増加すると、まちの緑被率が下がって美観的にも環境的にも魅力に乏しいまちになってしまう。

■リニア駅周辺と中心市街地の役割分担

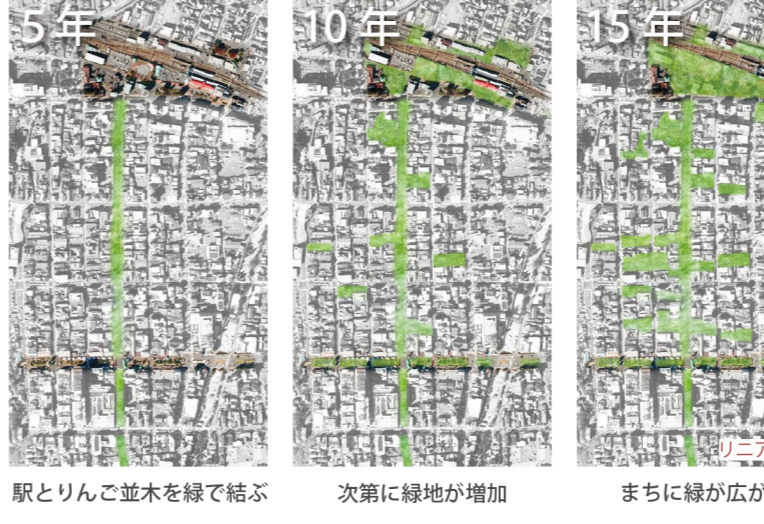


飯田の中心市街地は江戸時代に城下町が発展した商業の街である (fig.1)。1947年の大火で信州の小京都と言われるほど美しい街並みのほとんどが失われてしまった。当時の航空写真を見ると、田畑の中に中心市街地が広がっていたことがわかる (fig.2)。大火後、早急でGHQの指導のもとで先進的な防災都市として生まれ変わり、現代にも引き継がれている。当時整備された防災道路や緑地帯、裏界線は飯田の重要な都市の骨格である (fig.3,4,5)。また、他の都市に比べて細長い形状の建物が多く、ほとんどが縦軸と裏界線に接している (fig.6)。行政の主要施設も集積しており、コンパクトでヒューマンスケールなまちである。しかし、70年代に入って次第に商業施設の郊外移転が始まり、スプロールが進んだ。その結果、中心市街地の空洞化が進んでくつろぎやコミュニティが失われ、閉鎖とされている (fig.7)。それでも、飯田市は昔から市民活動が盛んなこともあり、イベントが行われる週末などは、今でも多くの人々が中心市街地に訪れている (fig.8)。

中心市街地活性化との連携



時間軸を考慮した柔軟性のあるまちづくり



多くの人々を巻き込むためのプログラム

- ・カルチャースクール
中心市街地を持続可能にしていくためのプログラムとしてカルチャースクールを提案する。カルチャースクールとは地域住民や県外から訪れた人を講師として招き、体験型プログラムを中心とする地域の誰もが通うことのできる学校のようなものである。ただ技能を習得するだけでなく、多世代間の交流を通して新たな文化を育むことを目指す。公民館活動が盛んな飯田のまちにカルチャースクールを導入することで、中心市街地に新たな魅力を付加する。
- ・駅の多機能化
多くの人々が訪れる駅はまちにとって重要な場所である。電車を待つだけではなく、様々な出会いやアクティビティのある新しい駅にする。駅を人々が日常的に訪れる場にする。

■まちづくりの手法 / 市民が主体的に関わりながら、緑地と建築を同時につくり集積する

緑の広場 / 駅

- 駅周辺は飯田市が整備
- 町家を新築
- ビルをリノベーション

緑の路地 / 街並みの修景

- 町家を新築
- ビルをリノベーション

緑の交差点 / 通り町とりんご並木の交点

- 観光集客施設は飯田市が整備
- 飯田市が補助をして個人で取り組む
- 個人が活動がヒートアイランドの抑制と修景につながる新しいかたちまちづくり

緑のカーテン

- 飯田市が補助をして個人で取り組む
- 個人が活動がヒートアイランドの抑制と修景につながる新しいかたちまちづくり

緑のテラス

- 飯田市が補助をして個人で取り組む
- 個人が活動がヒートアイランドの抑制と修景につながる新しいかたちまちづくり